

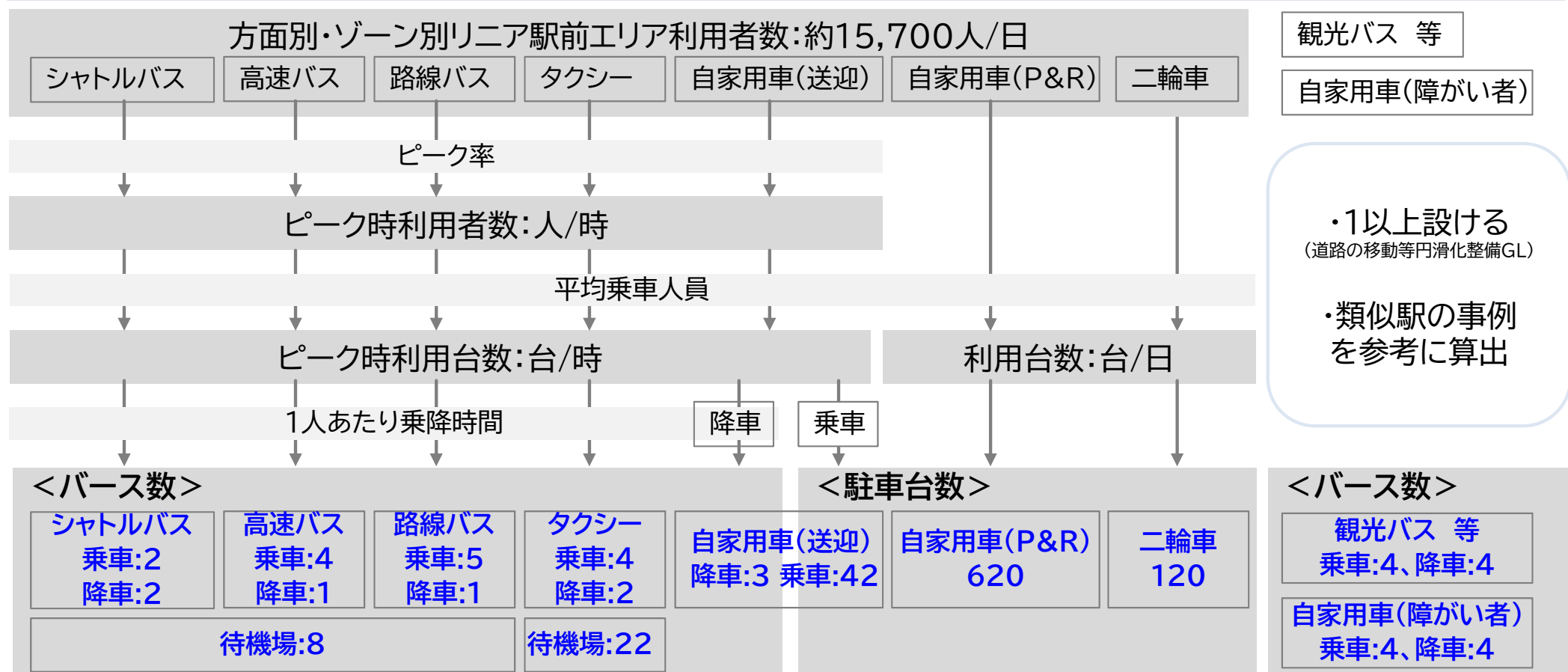
需要予測・施設規模について

令和4年10月21日
山梨県

議事2. 需要予測・施設規模について

■ 需要予測の考え方 (算定方法の概要、考慮する交通モード等)

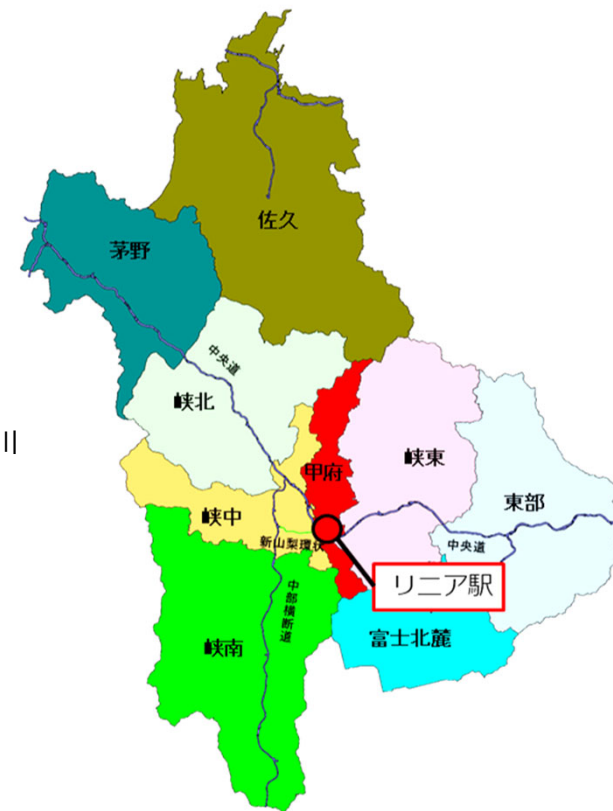
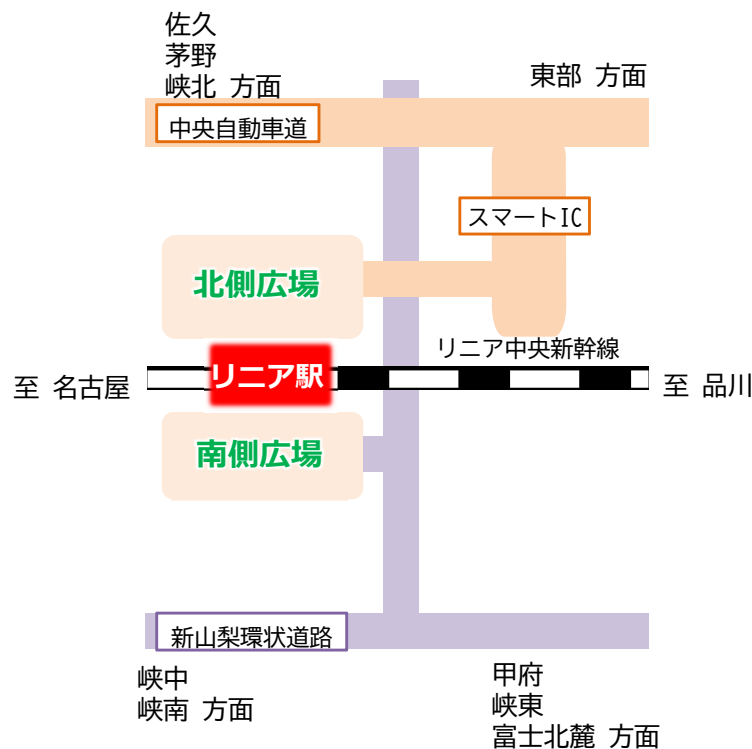
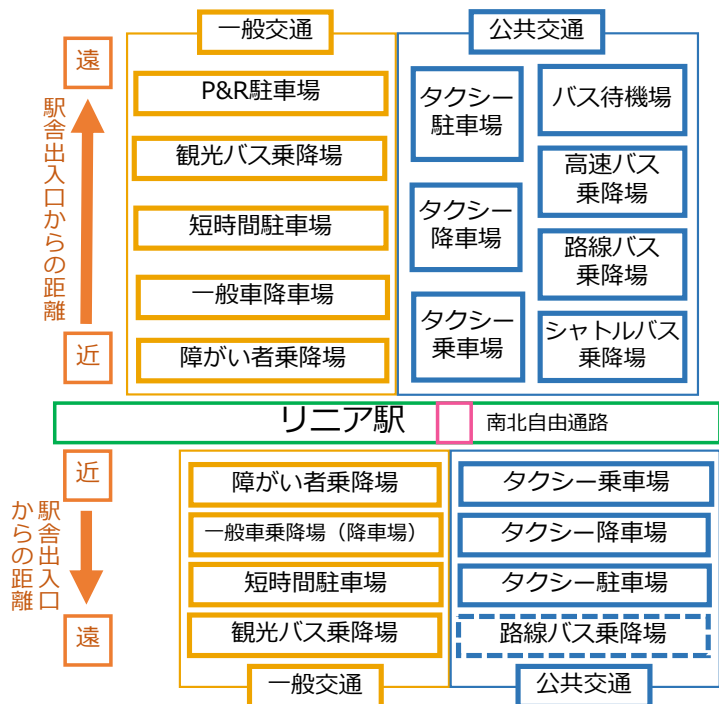
- 交通施設規模は、各交通手段別の利用者数から、基本的に「**駅前広場計画指針**」に基づき算定する。
 - バス(シャトル、高速、路線)、**タクシーの乗降場**、**自家用車(送迎)の降車場**は**ピーク時の利用台数**と1人あたりの**乗降時間**を考慮してバース数を算定する。
 - 自家用車(送迎)の乗車場**は、短時間駐車場として**ピーク時の利用台数**を確保する。
 - 自家用車(P&R)**、**二輪車**は**1日の利用台数**を駐車(輪)台数として確保する。
 - 観光バス等**、**自家用車(障がい者用)**は「**道路の移動等円滑化整備ガイドライン**」より1以上設けることとし、**類似駅の事例**を参考に算出する。



議事2. 需要予測・施設規模について

■交通施設の配置条件

- 「リニア駅前エリア整備の在り方検討会」では、リニア駅前エリアの南側、北側に左下図に示す乗降場を配置する。
- リニア駅前エリアの北側は中央道のスマートICと直結する計画であり、中央道方面からアクセスする利用者のため、南側は新山梨環状からアクセスする利用者のための乗降場を整備することが望ましい。そこで、中央道方面並びに新山梨環状方面の各方面別利用者数から各交通手段の乗降場の施設規模を算定する。
- リニア利用者数を推計した県内7ゾーン、県外2ゾーンのうち、中央道方面は「佐久」、「茅野」、「峡北」、「東部」とし、新山梨環状方面は「峡中」、「峡南」、「甲府」、「峡東」、「富士北麓」とする。



議事2. 需要予測・施設規模について

■エリアごとの施設規模

- ・リニア駅前エリアの利用者数から求まる交通施設数は以下のとおりである。
- ・今後はリニア駅利用の変動制を考慮し、交通施設規模は拡張性を有した計画とする。

分類	施設		バース数(台)		
			北側	南側	合計
公共交通	シャトルバス(1)	乗車場	1	-	1
		降車場	1	-	1
	シャトルバス(2)	乗車場	1	-	1
		降車場	1	-	1
	高速バス	乗車場	4	-	4
		降車場	1	-	1
	路線バス	乗車場	5	-	5
		降車場	1	-	1
	バス待機場		8	-	8
	タクシー	乗車場	2	2	4
降車場		1	1	2	
待機場		9	13	22	
一般交通	自家用車(送迎)	短時間駐車場	17	25	42
		降車場	1	2	3
	P&R駐車場	620	-	620	
	二輪車	60	60	120	
	観光バス等	乗降場	2	2	4
	自家用車(障がい者)	乗降場	2	2	4

参考値

※北側南側の施設配置数については駅前広場の計画により変更の可能性あり

議事2. 需要予測・施設規模について

■リニア駅北側に必要な施設規模（面積）

- ・リニア駅で必要な各施設の面積を算定するため、県都に位置する新幹線駅の事例等を基に原単位を設定
- ・需要予測にて算定されたリニア駅北側の必要バース数に原単位を乗じて、リニア駅で必要な面積を算定

分類	施設		単位バース当たりの面積(m ²)	リニア駅北側に必要なバース数(台)	リニア駅での必要面積(m ²)	参考値	
公共交通	シャトルバス(1)	停留場所	60~70	2	120~140		
		乗降場	50		100		
	シャトルバス(2)	停留場所	60~70	2	120~140		
		乗降場	50		100		
	高速バス	停留場所	60~70	5	300~350		
		乗降場	50		250		
	路線バス	停留場所	60~70	6	360~420		
		乗降場	50		300		
	バス待機場(操作場所)			100	8		800
	タクシー	停留場所	乗降場	20	3		60
乗降場			20	60			
操作場所		20	9	180			
一般交通	自家用車(送迎)	操作場所	20	17	340		
		乗降所	20	1	20		
	P&R駐車場			-	620	-	
	二輪車	駐車場	-	60	-		
	観光バス	停留場所	60~70	2	120~140		
		乗降場	50		100		
	自家用車(障がい者)	乗降場	20	2	40		
交通結節関連機能	オープンスペース		-	-	約 3,000		